



平成 19 年 12 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社 東 研
代表者名 代表取締役社長 小 平 学
(JASDAQ コード番号 6738)
問合せ先 取締役総務部長 大類 隆義
(TEL. 03-5325-4321)

平成 20 年 4 月期中間期（連結・単独）業績予想の修正 及び特別利益、特別損失の発生に関するお知らせ

平成 19 年 6 月 29 日の決算短信に公表した平成 20 年 4 月期（平成 19 年 5 月 1 日～平成 20 年 4 月 30 日）の中間期の業績予想の修正と、当中間期において特別利益及び特別損失が発生いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 4 月期 中間連結業績予想数値の修正（平成 19 年 5 月 1 日～平成 19 年 10 月 31 日）
(単位：百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	2,670	△20	△45	△55
今 回 修 正 予 想 (B)	2,549	2	△27	△28
増 減 額 (B-A)	△121	22	18	27
増 減 率 (%)	△4.5	—	—	—
(ご参考) 前期実績(平成 19 年 4 月期中間期)	2,636	51	39	7

2. 平成 20 年 4 月期 中間単独業績予想数値の修正（平成 19 年 5 月 1 日～平成 19 年 10 月 31 日）
(単位：百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	2,570	△20	△40	△50
今 回 修 正 予 想 (B)	2,480	34	8	△22
増 減 額 (B-A)	△90	54	48	28
増 減 率 (%)	△3.5	—	—	—
(ご参考) 前期実績(平成 19 年 4 月期中間期)	2,423	70	65	34

3. 修正の理由

(1) 連結

バーコード関連事業は、ポータブルの 2 次元コードリーダー、機械組込用固定式スキャナなど新製品の販売と、運輸業界向けのプリンタの大口案件があったことから、イメージャーやプリンタを中心に売上高は順調に推移しました。しかし、X線事業は、携帯電話などに使われるリチウムイオン電池の検査装置の売上高は順調に推移したものの、X線顕微鏡などの高額製品の売上高が減少したことから、売上高は大幅な未達となりました。その結果、全体の売上高は 2,549 百万円となる見込みであります。

利益面につきましては、海外子会社の赤字が予想より大きかったものの、原価低減と経費節減に努めた結果、営業利益は2百万円、経常損失は27百万円で前回予想よりも赤字幅を縮小することができる見込みであります。また、投資有価証券売却益8百万円を特別利益に、関係会社株式評価損15百万円を特別損失に計上した結果、当期純損失は28百万円となる見込みであります。

(2) 単独

連結と同様の理由（子会社による影響は除く）により、売上高は前回予想を下回りますが、営業利益、経常利益は前回予想を上回る見込みであります。また、これに加え、合併による抱合せ株式消滅差益32百万円を特別利益に、子会社株式評価損45百万円を特別損失に計上した結果、当期純損失は22百万円となる見込みであります。

4. 特別利益及び特別損失の発生

当中間期において、下記のとおり特別利益及び特別損失を計上いたしました。

(1) 特別利益

①投資有価証券売却益8百万円（連結・単独）

保有していた投資有価証券の売却により発生したものであります。

②合併による抱合せ株式消滅差益32百万円（単独）

当社の子会社であった株式会社東研アイ・ディーシステムを合併したことにより発生したものであります。

(2) 特別損失

①関係会社株式評価損15百万円（連結・単独）

当社の関係会社であった株式会社ティーエスアイが清算手続きに入ったことにより株式評価損を計上したものであります。

②子会社株式評価損45百万円（単独）

当社の子会社であるTOHKEN USA, Inc.の見直しをしたことによる株式評価減を認識したものであります。

なお、連結・単独の通期業績予想につきましては、当中間期を踏まえて現在精査中でありますので、確定次第直ちにお知らせいたします。

※上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上